

# 如意輪寺(吉野郡吉野町)

これは如意輪寺の山門



南北朝時代(1346年)、楠木正行が四条畷の合戦に向うにあたり、この地で辞世の句を詠んだという



山門の向こうが本堂



これが如意輪寺本堂(如意輪堂)/江戸時代(1650年)の再建



## 如意輪寺

専横の北条幕府を倒し、建武中興を成しとげた後醍醐天皇は、足利氏との争いのため京都を逃れ、吉野山へ行幸以來四年間、吉野の行宮に過ごされました。延元四年（三三三九）病床に就かれ「身は仮へ南山の苔に埋まるとも魂魄たましいは常に北闕ほっけつ（京都）の天を望まん」と都をあこがれ、遂に崩御されました。天皇の遺骸をそのまま北向きに葬ったのが、塔尾陵です。次帝後村上天皇の正平二年（三四七）十二月楠木正行公の一族郎党百四十三人が、四条畷（大阪府）の決戦（足利の武将高師直との戦）に向うにあたり、吉野の皇居に天皇と今生の別れを告げ、先帝の御陵に参拝の後、如意輪堂に詣でもと鬘まつりを切つて仏前に奉納、過去帳に姓名を記し最後に正行公は、鏃をもつて御堂の扉に

かへらじとかねておもへば様ろ

なきかずにいる名をぞとむる

と辞世の句を残して四条畷に向いましたが衆寡敵せず、弟正時と共に最期をとげました。

現在の建物は、約三百五十年前の再建で、正行公の歌をとどめた扉は寺宝として、宝物殿に保存されています。

こちらは本堂左手にある庫裡



屋根の上に立派な換気口がある



アップで見たところ





こちらは後醍醐天皇御霊殿









側面全体を見たところ



楠木公父子の像/父「正成」が討ち死に覚悟で戦地に赴く時に子「正行」に別れを告げている情景の像



アップで見たところ



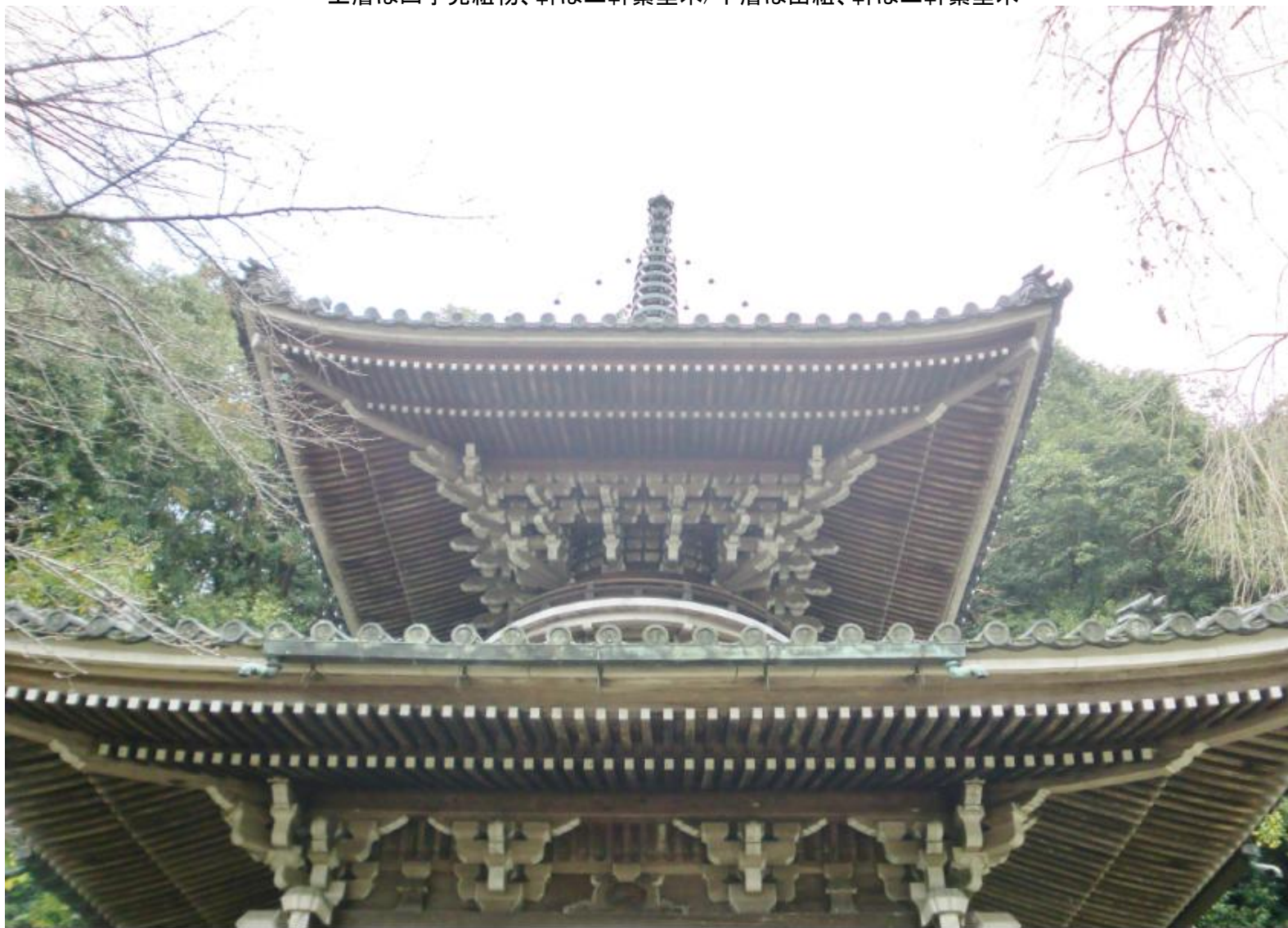
こちらは多宝塔/1926年に建立







上層は四手先組物、軒は二軒繁垂木/下層は出組、軒は二軒繁垂木



中央間棧唐戸、脇間連子窓、中備えは中央間菊水の彫刻の墓股、脇間葺束





これは擬宝珠高欄を付した縁





この先には南朝の勅願寺、後醍醐天皇の塔尾陵がある









参考ホームページ

<http://www.nyoirinji.com/>

<http://www12.plala.or.jp/HOUJI/otera-3/newpage506.htm>

<http://masayan-ei.sakuraweb.com/blog/2015/01/05/nyoirinji/>

<http://www.asahi-net.or.jp/~xt4v-mtmt/nara/nyoirinji/nyoirinji.html>

<http://www.geocities.jp/kawai5510/nara-nyoirinji.htm>

<http://osaka82.com/nara/play/nyoi.html>

<http://www.glomaconi.com/butsuzou/meisho/nara/nara-yoshino-nyoirinji.htm>

